

令和5年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	104

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 東雲小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 西岡 香恵

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	96	26	70	4	0	3.2	○教師が、松山の授業モデルを意識し、「教える授業」から「学び合う学習」への授業改善に努めたことで、児童は意欲的に学習し、授業内容をよく理解することにつながった。 ○タブレットの活用により、自分の考えを表現したり、友達と考えを共有したりして、学習を深めた。EILSで、定期的に確認テストを行うことで、基礎・基本の定着の一助となった。 ◆全体的に基礎・基本は身に付いているが、学力の二極化が見られるため、引き続き、学び合いを重視した授業、家庭学習の充実、個の実態に応じた支援を実践していく。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	A	教職員	96	57	39	4	0	3.5	
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	87	30	57	13	0	3.2	
			学校関係者	100	21	79	0	0	3.2	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	61	39	0	0	3.6	○いじめ問題は、毎月の生活調査等で把握し、全体で情報共有して迅速に対応した。 ○いじめ0の日に、児童主体の集会等を通して人権意識を高める活動が継続できた。 ○毎月、児童の実態に即した重点目標を設定し、全校で共通理解を図り、取り組んだ。 ◆登校時刻が守れていない児童が多いので、個別に保護者にも働き掛け、改善する。
			学校関係者	100	93	7	0	0	3.9	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	96	35	61	4	0	3.3	
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	91	26	65	9	0	3.2	◆6年生では、外部講師や様々な職業の方を招き、キャリア教育を推進している。他学年でも地域の方との交流の際、その方の思いも知り、自分の生き方を考える場とした。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	OPTA、スクール・ガード・リーダーによる朝の見守りや教育支援センターとの連携により、児童の交通安全に努めた。毎月の安全点検により、安全な環境づくりに努めた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	48	52	0	0	3.5	○毎日の健康調べのほか、早寝早起朝ごはんは、長期休業中にチャレンジ週間を設定したり、保健だより等で呼び掛けたりするなど、啓発に努めた。 ○毎時間の換気、手指の衛生について各学級担任が適宜指導を行っている。インフルエンザ等が多くなった時は、児童や保護者にマスク着用の推奨について働き掛けた。
			学校関係者	93	72	21	7	0	3.7	
	学校は、「換気の確保」や「手指衛生等の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	A	教職員	100	55	45	0	0	3.6	
			学校関係者	93	72	21	7	0	3.7	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	91	35	56	9	0	3.3	○配慮が必要な児童については、特別支援教育コーディネーターを中心に、ケース会議を開き、関係機関からの助言を得ながら、適切な支援を行うことができるよう配慮した。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	41	59	0	0	3.4	○教務主任を中心に、学年主任や各教科等の主任が、それぞれの立場で学校全体のことを考えた前向きな意見を出し、組織で対応することができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	96	53	43	4	0	3.5	○研修主任等を中心に、実効性のある研修が計画的に行われた。全校授業研究やセンターフェスタなど、全職員がよりよい授業づくりに向けて積極的に研修を行うことができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保護者・地域との連携	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	52	48	0	0	3.5	○公民館やPTAとの連携により、地域の方の支援の基、充実した活動を行い、教師の負担軽減にもつながった。まつやま型CSの実施に向けて、より連携を深めていく。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
情報提供	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	59	41	0	0	3.6	○校報しのため、学年だより、ホームページ等で学校や子どもたちの様子を伝えるよう努めた。tetoruの導入により、様々な情報発信をすることができた。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	96	48	48	0	4	3.4	○「聴き方名人になろう」で、よい聴き方・話し方に全校で取り組んだことは、言語環境の充実につながった。学年掲示では、学びの振り返りができる効果的な掲示ができた。
			学校関係者	100	93	7	0	0	3.9	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	86	23	63	5	9	3.0	○中1ギャップ解消の手立てとして、教師や児童が中学校の授業参観を行っている。 ◆幼稚園・保育園は数が多く、十分な連携は難しいが、必要に応じて情報共有を行う。 ○東中学校区小中連携教育としての、教育課程、教育環境、特別支援教育の三つの部会を中心に研修や情報共有に努め、学校間の系統性を重視した学習指導を行った。 ◆学級編成に係る入学、卒業前の情報交換に限らず、配慮を要する児童については、必要に応じて積極的に行い、互いに児童理解に努める。また、校内での共有も行う。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	86	27	59	9	5	3.1	
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	A	教職員	81	36	45	14	5	3.1	
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	